

耕種農家が取組む 青刈りとうもろこしの大規模生産

取組紹介



八街市 菅原農園

代表 菅原 啓介 氏

【メモ欄】



1

国産デントコーン生産に至るまでの 菅原農園

- 新規就農から大規模露地野菜の生産者
(2013秋就農)
- 露地野菜と蕎麦(2017スタート)、デント
コーン(2020スタート)の並行経営
- 蕎麦、コーンに絞った土地利用型農業に完
全シフト。2024年より。



2

2

国産デントコーンサイレージに着目したきっかけ

- 日本の中長期にわたる円安進行の危惧。
→日本のGDPに対する国債発行額の異常なまでの債務超過体質..低金利慣れ。超円安はいつでも来るのでは。
- 酪農、畜産分野における飼料の輸入依存度が高い。
→安定価格安定品質で国産の飼料が提供できれば..酪農、畜産分野を強くできるかもしれない。
- 今後も本県でも増え続ける担い手不足の恒常化。
→今後も空いていく農地をどう活用し、後世に継承していくか、スピード感を持った対応が必要。

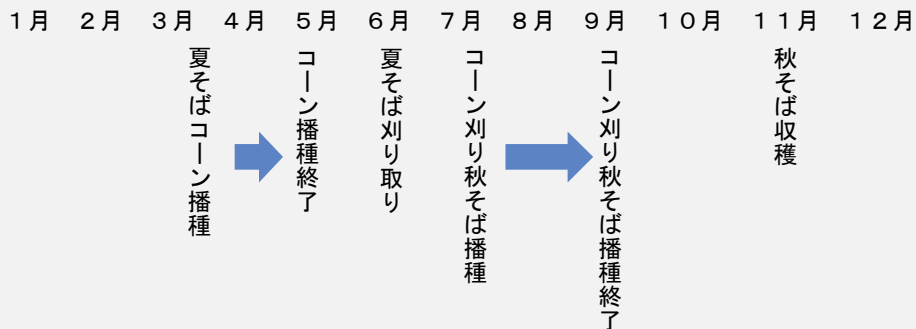


3

3

菅原農園組織 概略

- 本人、2名の社員。合計3名。夏季のコーン収穫と蕎麦播種が重なる繁忙期のみ、農作業委託を知人農家複数名に依頼。
- 2024コーン作付け面積60ha.蕎麦作付け夏秋合計46ha.

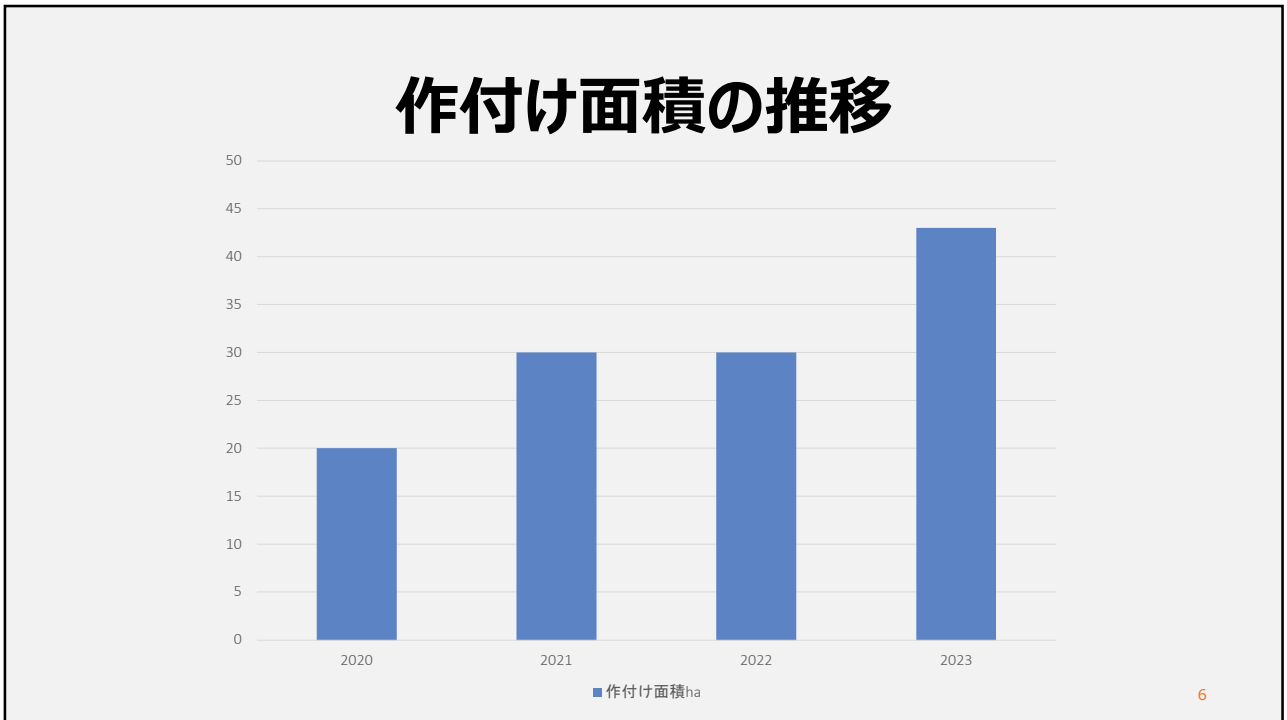


4

4



5



6

6

主要機械装備

デントコーン生産に必要な機械装置まとめ

- コンビラップ
 - コーンハーベスター 3 条刈り
 - デントコーン真空播種機 4 条
 - トラクター用ボンネットワゴン
 - ブームスプレーヤー
 - トラクター100ps、120ps、155ps
 - 4トントラック出荷用 2 台、ダンプ 1 台。
 - ホイールローダーWA50
 - パワーハロー
 - ディスクハロー
 - スタブルカルチ
 - リバーシブルプラウ 3 連、2 つ
- この他に収穫シーズンのみ、4トントラック 2 台、ホイールローダー 2 台を近隣から借りてきています。



7

7

菅原農園の課題と今後の目標

課題

- 異常気象を見据えて逆算した、適期作業の徹底。播種、管理、収穫。
- 従業員のオンオフシーズンの明確化。
- 今後老朽化していく機械の適期更新。
- バイオスティミュラント資材やドローンを導入した先端農業で収量、歩留まりの向上。

目標

- 畑作での土地利用型農業のメソッド確立。他の地域でも再現性のある普及、運用ノウハウをまとめる。
- 上記達成のために夏そば、麦作の導入検討。
- あと数年で管理圃場が200haかそれ以上になった場合の雇用増、機械装置の導入計画の想定。

8

8

菅原農園の他とは違う強みと、他産地でも実現しうるヒント

- 高度機械化により、コーン、そば、ともに10aあたりの作業時間は分単位で実施、計測可能。
- 野菜作のノウハウも盛り込み、そば、コーン共に地域平均を上回る実績。
- デントコーン収穫の夏場のみ、農作業委託。として、知人農家の数名の応援要請で生産し、通年雇用人数を最小の2名としている。
- サイレージは自社便と知人に運送委託をすることで運賃を最大限安くしている。
- 販路拡大、代金回収等の販売は地元飼料店を通して円滑に行われるので、生産に集中。
- 収入保険制度に2020より加入済み。
- 必要な機械でも中古でも良いものは見定めて、導入コストをおさえている。
- シーズンのみ必要な機械は借りれるものであれば借りて賃料を支払い、購入よりもコストダウンする。
- 修理が必要な機械は自分たちや周りの農家の知識を頂き、可能な限り自分たちで修理、改善する。

9

9

ご清聴ありがとうございました。

10

10

